



バックアップサービスの概要

データ消失に対する最強の予備対策

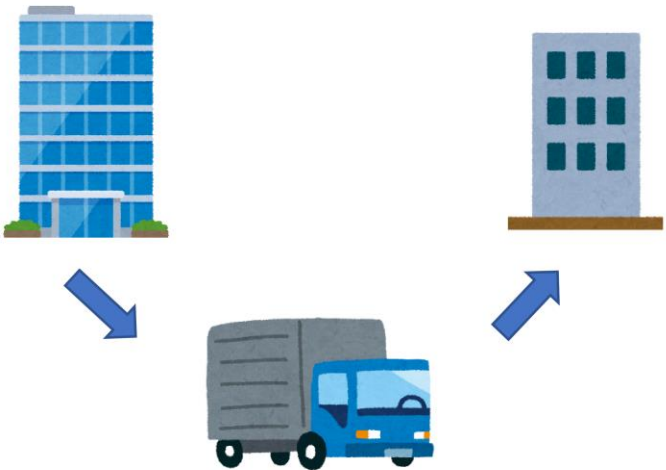
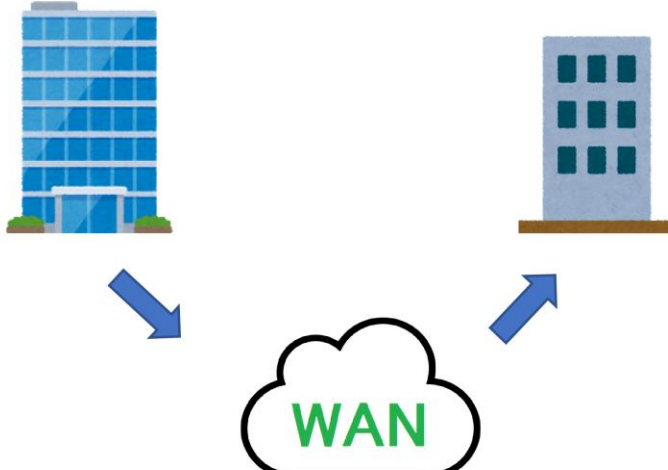
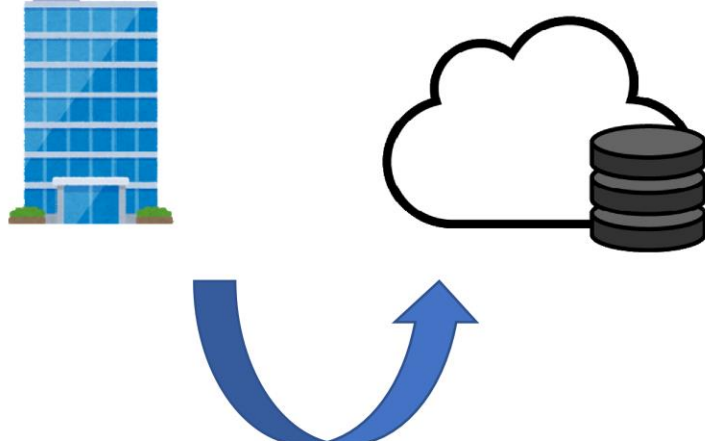
By合同会社アットアイデア

現在重要視されつつある 遠隔地バックアップとは

- ▶ ビジネスにおいて重要データのバックアップは以前から必須と考えられていましたが、東日本大震災で「オリジナルとバックアップを1ヶ所に置いておいたら災害の時には両方失われてしまう」という問題が明らかになりました。



遠隔地バックアップを実現する 3つの方法

A.物理的に遠隔地へ搬送	B.地理的に離れた拠点にネットワーク転送	C.クラウドにネットワーク転送
テープ・ディスクなどを遠隔地に送る	搬送の代替としてネットワークを利用する	クラウドサービスを利用する
		

A. 物理的に遠隔地へ搬送の メリット・デメリット

▶ メリット

- ▶ コストが安い
- ▶ 長期保管に優れている
- ▶ サイバー攻撃に強い（オフライン保管のため）

▶ デメリット

- ▶ 工数（搬送時など）がかかる
- ▶ 管理の煩雑化
- ▶ 復旧時に人員が現地にいる必要がある
- ▶ ダウンタイムの長期化

B.地理的に離れた拠点に ネットワーク転送のメリット・デメリット

▶ メリット

- ▶ リモート管理ができる
- ▶ 復旧データの取り出しもネットワーク経由
- ▶ 現地人員が不要など人的コストを抑えられる

▶ デメリット

- ▶ ハードウェア導入など初期コストが割高
- ▶ 保守・電源管理など運用費がかかる
- ▶ WANを強化すると回線の圧迫・セキュリティ問題が生じる
- ▶ 拡張性が低い

C.クラウドにネットワーク搬送の メリット・デメリット

▶ メリット

- ▶ 保存先の拠点不要
- ▶ 設備投資不要で初期コストを抑えられる
- ▶ 人的コストが抑えられる
- ▶ 拡張性がある

▶ デメリット

- ▶ コストの算出が難しい（月額or従量orダウンロード課金）
- ▶ クラウド特有のスキルが必要（ネットワーク構築など）
- ▶ WANを強化すると回線の圧迫・セキュリティ問題が生じる

@IDEAが物理的遠隔搬送に こだわる理由①（対ネットワーク転送）

- ▶ 物理的搬送の場合、バックアップ作成のツールを選ばない
ネットワーク転送の場合、ミラーリング専用ソフトをインストールする必要
- ▶ 物理的搬送の場合、バックアップすべき状態を決めて作業できる
ネットワーク転送の場合、誤操作もバックアップに反映されてしまう
- ▶ 物理的搬送の場合、容量の上限がほぼ存在しない
ネットワーク転送の場合、回線の通信速度により容量が事実上制限される
- ▶ 物理的搬送の場合、システムドライブのバックアップも可能
ネットワーク転送の場合、バックアップできるのはデータのみ
- ▶ 物理的搬送の場合、災害によりネットワークに甚大な被害を受けても
迅速にシステムの起動が可能
ネットワーク転送の場合、ネットワークが復旧するまで使用不可

@IDEAが物理的遠隔搬送に こだわる理由②（対クラウド転送）

- ▶ 物理的搬送の場合、バックアップ作成のツールを選ばない
クラウド転送の場合、ミラーリング専用ソフトをインストールする必要
- ▶ 物理的搬送の場合、バックアップすべき状態を決めて作業できる
クラウド転送の場合、誤操作もバックアップに反映されてしまう
- ▶ 物理的搬送の場合、容量の上限がほぼ存在しない
クラウド転送の場合、回線の通信速度により容量が事実上制限される
- ▶ 物理的搬送の場合、システムドライブのバックアップも可能
クラウド転送の場合、バックアップできるのはデータのみ
- ▶ 物理的搬送の場合、災害によりネットワークに甚大な被害を受けても
迅速にシステムの起動が可能
クラウド転送の場合、ネットワークが復旧するまで使用不可
- ▶ 物理的搬送の場合、データ消失に備える方法はデータ所有者が決められる
クラウド転送の場合、クラウドサービス提供業者に任されるので業者の手違い
でデータが失われる危険性があり、それが自己責任とされる

@IDEAが物理的遠隔搬送の欠点を克服できる理由

- ▶ 欠点①・・・工数がかかる
→バックアップの作成は全て弊社が行います。また、定期的にバックアップを作成する場合その世代管理も弊社で行います。
搬送は弊社契約の運送会社がおお客様の元まで承りにまいります。
専門の会社でございますのでお任せ下さい。
- ▶ 欠点②・・・管理の煩雑化
→弊社ではバックアップメディアを専用のコンテナに収納します。
このことにより管理がドライブ毎にではなくコンテナ毎の管理にできます。
大幅に作業料が減ってまいります。
- ▶ 欠点③・・・復旧時に遠隔地に人手が必要
→全て弊社で承ります。
必要な時期のバックアップを契約運送会社と協力し速やかにお届けします。

実際にバックアップが必要になった場合

物理的搬送による場合

→PCを復旧し、必要なバックアップを用意し、
運送会社により迅速に搬送
これにより、ダウンタイムは搬送にかかる数日

ネットワーク転送による場合

→PCを復旧し、ネットワークを復旧し、
状況によってはクラウドとの接続を確立し、
必要なデータを確定して通信回線経由で
データを復旧することが必要
ダウンタイムは週単位から月単位必要

遠隔地バックアップが必要な場合のような非常時には
実は物理的搬送方式が一番早いのです！

費用の問題について

A社の提示する費用と弊社の費用の比較

A社による試算

イニシャルコスト

→テープやディスク装置

¥1,000,000

→転送のためのメディア

¥360,000

サービス・保守など

→データ預かりサービス

¥600,000 (¥50,000×12ヶ月) /年

メディア入れ替えや搬送

→契約次第

初年度計 ¥1,960,000

お預かりするデータを3TBドライブ×10および
月1回のバックアップを半年分保管と仮定した試算です。
詳しい見積りは別途ご請求下さい。

@IDEAの場合

イニシャルコスト

→テープやディスク装置

¥170,000程度 (データ輸送用外付けHDD)

¥88,000程度 (弊社保管用内蔵HDD)

→ハードディスク用コンテナ

¥3,000程度

→契約料

¥200,000

サービス・保守など

→データ預かりサービス

¥240,000 (¥20,000×12ヶ月) /年

→データコピー作業費

¥18,200 (3TB×10)

世代管理サービス (オプション)

→ ¥120,000 (¥20,000×6ヶ月) /年

初年度計 ¥839,200

@IDEAの豊富なオプション

HDDやSSD以外にも対応

→USBメモリ・SDカード・記録式光ディスクなども承ります

直近のバックアップだけでなく、ご希望に応じて
過去数世代のバックアップを世代順に管理致します

→データもプログラムも「最新のものなら間違いない」とは
言い切れない場合がございます

過去のバックアップを保存しておけば、過去の状態への
ロールバックが容易になります

データ消失事故の際にはデータ復旧作業が可能です

→@IDEAは光ディスクの研磨・記録メディアの精査など
失われたデータを復旧する作業から始まっております
あらゆるメディアにおいてデータ復旧作業が可能です

※消失したデータの100%復旧を保証するものではありません
また、有料となります

バックアップの諸々をご相談下さい
ご縁をいただけることを
お待ちしております

〒612-0059

京都府京都市伏見区桃山水野左近西町 4 8 番地 6

TEL 0120-401-768

FAX 075-320-2478

atidea-info@disc-reborn.co.jp